

## 第 1 2 回

# 津別町市街地総合再生基本計画推進協議会

日時：令和4年8月19日（金）午後6時30分

場所：中央公民館1階 講堂

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 前回会議録の確認
4. 【協議事項】
  - ① 前回開催からこれまでの経過についての報告
    - (1) 実施設計概要について
    - (2) 整備事業に係る経過と対応について
    - (3) 整備事業費の増額に対する分析について
  - ② 運営検討チームの活動経過についての報告
  - ③ 整備施設外観（壁面の色）について協議
5. 今後のスケジュールについて
6. 閉会

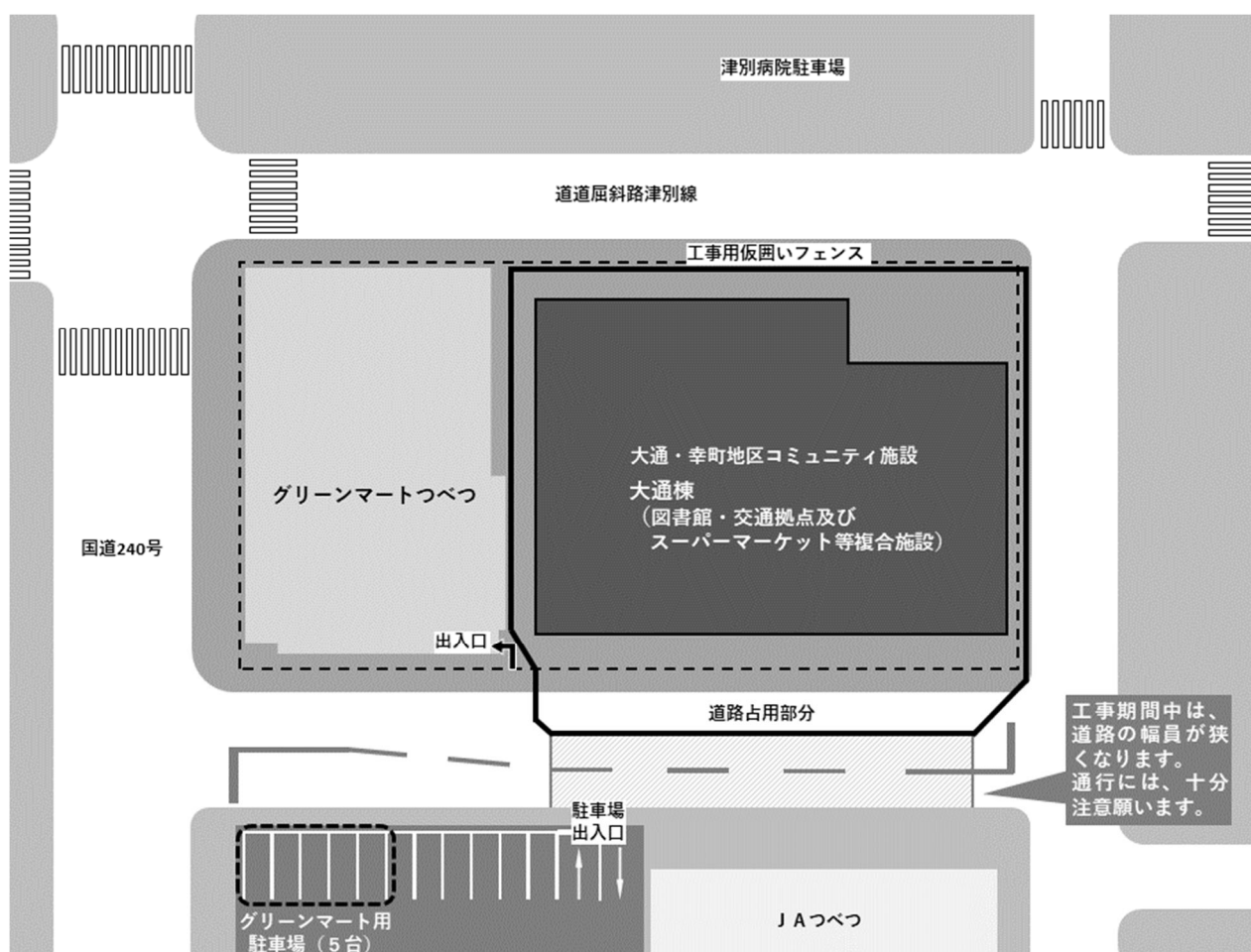
## (2) 整備事業に係る経過と対応について

### ①整備の進捗と当面の工程

まちなか再生事業の整備の進捗ですが、現在、既存建築物の解体、仮設工事、土留め工事を終え、本体工事の基礎工事に取り掛かります。

町民の皆様には、ご迷惑をおかけしておりますが、当該工事の敷地が狭く道路を占有する形でフェンスが張られ、道路幅員も狭くなっております。また、既存の店舗駐車場も使えなくなり、店舗出入口も変更となっております。なお、JAつべつの協力を得て、JA駐車場のうち5台分をグリーンmart利用者用として、提供していただいております。

### □まちなか再生事業 大通・幸町地区コミュニティ施設「大通棟」配置図及び仮設計画



### ②建設費の高騰

7月7日に地元事業者からなる施工者の見積もりが、開発事業者であるアルファコート㈱へ提出されました。その内容は、町が想定していた建設費(約6億8千万円)を約47.6%上回るもの(10億百万円)でした。

昨今の資材高騰や入手困難な状況は、各種報道などで取り上げられており、これらは新型コロナウイルス感染拡大、ウクライナ危機、24年ぶりの円安水準、原油・原材料の値上がりなど、複合的に要因が絡んでおり、当面改善されることは無い状

況と捉えています。

また、庁舎の建設など公共工事が道内自治体で行われていますが、今年5月や6月の議会において、工事費の追加をする予算補正が相次いでいます。その増加率は25%から40%程度と見られ、さらに最近では、入札においても予定価格と実勢工事費の乖離が顕著となっており、入札の不調や中止となるケースも道内自治体で増えています。※資料1（P4～6）を参照ください。

### ③設備機器及び資材の入手困難

設備機器及び資材等の納期遅延についても各種資材不足が続いており、入手困難となっています。設備機器についても半導体不足などの影響により、特にエレベーターは現在、受注を停止している状態で、他にもチップボイラー、設備機器などの納期が厳しく、全体工期に影響を与えそうな状況です。

### ④開発事業者の7月25日時点の分析 ※資料2（P7～9）のとおりです。

### ⑤内閣府への協議書提出

7月14日、道庁を通じ内閣府へ協議書（別紙とおり）を提出しており、その後も相談をしておりますが、回答内容といたしまして、事業費の増額については、10月に増額の申請の機会があり、基本的には事業費の2割以内とすることが、条件となります。また、事業の完了遅延については、まずは年度内完了を目指していただき、それでもなお年度内完了が難しいというのであれば、再度相談して欲しいとのことでした。ただし、決定は財務省であるため、道財務局へ経過を報告しておくこととのでした。

### ⑥今後の整備事業への対応

町としては、現在の建設費高騰の状況が改善する見込みが無く、さらに上昇すると想定されること。他の自治体でも同様に起こっており、予算補正で対応していること。増加の割合が48%（建設費10億百万円）より上回ることは無く、下げる工夫が可能なこと、工事を一旦中止した場合でも更なる価格上昇が起こるのは確実という現状などを鑑みて、本体工事の着手を進めていく考えです。今後も、高騰の要因や、金額の正当性については引き続き調査を続け、まとめ次第、議会や町民の皆様に報告したいと考えております。

### ⑦議会全員協議会（7/25）での協議

事業者への使用料、財政への影響、外構工事などの上昇、住民へ説明など質疑がありました。また内閣府交付金や資材高騰と分析など、更新された情報が入り次第報告して欲しい。工事の安全確保、住民に対しての一層の情報提供と説明の機会をつくって欲しいなどの意見がありました。

参考：現時点で想定する事業費とその財源

協定書締結時事業費と財源							単位：千円
項目	整備費	財源				交付税措置	
		交付金等	補正予算債	過疎債	一般財源等		
工事監理費	計	10,820			5,447	5,373	3,812
解体費	計	63,572			32,007	31,565	22,404
	図書館	412,645			412,645	0	288,851
	積み木広場	100,729	50,364	50,365		0	25,182
	ハイヤー	9,983	4,991	4,992		0	2,496
建築工事費	スーパーマーケット	71,922	35,961	35,961		0	17,980
	管理・共用部	82,924	41,462	41,462		0	20,731
	計	678,203	132,778	132,780	412,645	0	355,240
外構工事	計	43,197			21,749	21,448	15,224
諸経費	計	16,622				16,622	
合計		812,414	132,778	132,780	471,848	75,008	396,680



想定される事業費と財源

項目	整備費	財源				交付税措置	
		交付金等	補正予算債	過疎債	一般財源等		
工事監理費	計	10,820			5,447	5,373	3,812
解体費	計	63,572			32,007	31,565	22,404
	図書館	609,047			412,645	196,402	288,851
	積み木広場	148,672	60,436	50,365		37,871	25,182
	ハイヤー	14,735	5,989	4,992		3,754	2,496
建築工事費	スーパーマーケット	106,154	43,153	35,961		27,040	17,980
	管理・共用部	122,392	49,754	41,462		31,176	20,731
	計	1,001,000	159,332	132,780	412,645	296,243	355,240
外構工事	計	43,197			21,749	21,448	15,224
諸経費	計	16,622				16,622	
合計		1,135,211	159,332	132,780	471,848	371,251	396,680

# 資材高騰が建築コストを直撃 建築費は今後 1 年間で 1 割強上昇か

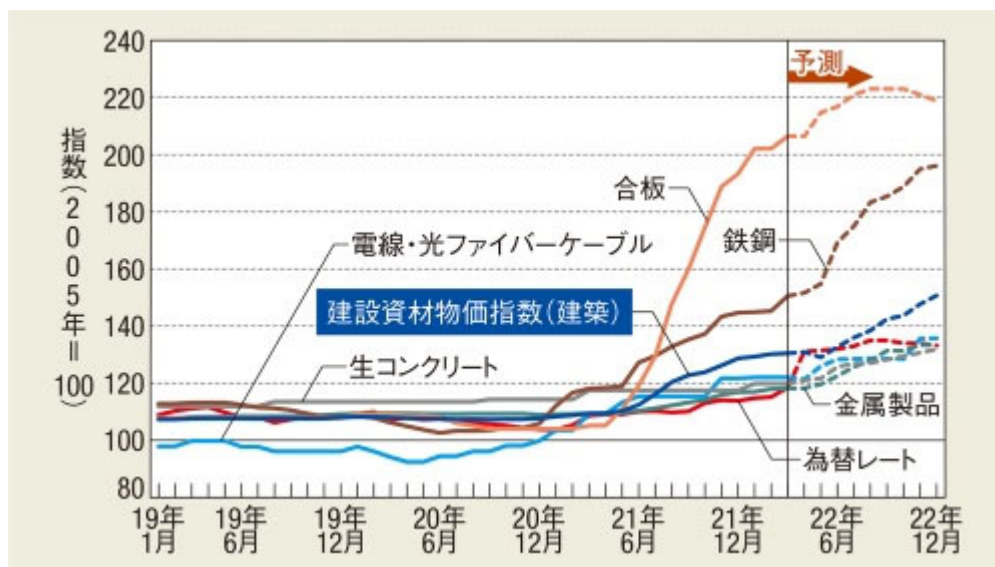
2022.05.26

2022 年 5 月期

2021 年度の建築物着工床面積は前年度比 7.1% 増となり、建築需要の回復が見えてきた。一方、ウクライナ危機の影響で原油や資材の価格高騰が加速し、景気の下振れが懸念されている。(日経アーキテクチャ)

2022 年 3 月の建設資材物価指数（建築部門）は前年同月比 19.2% 増だった。高騰が顕著な資材は製材（89.8% 増）や合板（96.2% 増）、鉄鋼（27.4% 増）。原油高で、そこに石油製品（16.4% 増）も加わった〔図 1〕。

〔図 1〕建設資材物価指数と為替レートの推移



建設資材物価指数は建設物価調査会、為替レートは日本銀行の資料を用いた

(資料：サトウファシリティーズコンサルタンツ)

木材、鉄鉱石、石炭、アルミニウム、銅、ニッケル——。日本は主要な建築資材の原材料の多くを輸入に頼っている。ウクライナ危機がもたらす原材料の高騰が、資材の製造コストをさらに押し上げそうだ。

とりわけ 22 年 4 月時点では、鉄鋼の価格上昇が鮮明だ。鉄鉱石や石炭などの価格上昇を受けて鉄鋼メーカーが値上げに踏み切り、H 形鋼は前月比で 4% も値上がりした。建物の主要構造部に使用する H 形鋼 (200×100) の場合、1 トン当たりの価格は 11 万円 (東京地区) で、前月よりも 4000 円も高い。20 年の底値から実に 48% も上昇した。

石炭や木材（単板）の禁輸など、ロシアへの経済制裁は長期化が見込まれる。メーカーの値上げ姿勢は今後も一段と強まりそうな気配だ。

輸入原材料の高騰に拍車をかけているのが、足元で急速に進む円安だ。22年4月28日には、02年4月以来、20年ぶりとなる1ドル=131円台まで円安が進んだ。円安による資材高は建築費の高騰に直結し、建設会社や発注者の負担増につながる。

日本銀行は円安に歯止めをかけるよりも、金利を低く抑えて景気を支える姿勢を明確にしており、さらに円安が加速する可能性もある。米連邦準備理事会（FRB）はインフレを抑制するため利上げに動いており、筆者は円安・ドル高基調が22年後半まで続くとみている。

□普通鋼鋼材都市別価格指数（建築）

2015年度（平成27年度）=100

	札幌	仙台	東京	新潟	名古屋	大阪	広島	高松	福岡	那覇
14年度平均	103.6	110.2	112.5	109.3	112.8	113.3	112.1	110.0	113.0	113.7
15年度平均	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
16年度平均	94.7	92.6	94.3	94.3	95.1	96.6	96.3	95.1	96.2	94.8
17年度平均	103.1	104.8	107.9	105.6	107.2	110.7	109.2	107.4	111.2	106.4
18年度平均	117.0	118.7	122.3	118.4	120.9	124.9	122.1	120.0	124.1	117.9
19年度平均	119.0	116.9	120.1	116.9	119.4	121.1	118.0	117.3	120.4	116.0
20年度平均	116.5	110.4	114.0	110.1	113.8	114.5	111.8	112.0	116.7	115.9
21年度平均	138.5	144.1	150.4	144.3	151.1	152.9	149.2	147.7	153.3	142.7
21年 6月	126.7	130.6	138.0	131.0	139.0	140.8	137.9	135.5	146.5	134.3
7月	131.0	137.1	143.2	136.1	145.0	145.6	142.5	140.2	148.0	137.7
8月	136.6	141.4	147.3	141.5	149.6	150.4	147.5	145.2	150.2	140.8
9月	138.9	144.5	150.0	145.1	150.8	153.2	150.1	148.2	152.3	141.7
10月	141.2	146.9	152.3	148.1	153.4	155.1	151.9	150.2	156.1	142.4
11月	146.0	154.4	162.8	156.5	160.4	163.4	159.2	157.9	162.0	149.7
12月	148.8	156.4	162.8	157.0	163.7	165.3	160.5	159.8	164.3	150.2
22年 1月	148.9	156.4	162.9	157.0	163.7	165.3	160.5	159.8	164.3	150.2
2月	148.9	156.4	162.9	157.0	163.7	165.3	160.5	159.8	164.3	150.2
3月	148.9	160.4	167.6	160.2	168.1	169.0	164.0	163.1	167.6	156.3
4月	157.5	170.3	178.8	168.8	176.1	180.1	173.9	172.7	180.6	168.5
5月	167.1	178.3	188.0	175.4	184.5	187.4	180.9	178.2	184.9	177.4
6月	172.4	180.1	189.8	177.7	188.5	189.8	182.1	179.3	186.0	178.5

# 道内は鉄鋼中心に値上がり傾向 国交省の建設資材価格調査

北海道建設新聞

2022年07月13日 08時00分

国土交通省の主要建設資材需給・価格動向調査によると、道内では2022年3月以降、鉄鋼資材を中心に値上がり傾向が急速に強まっていることが分かった。6月までに、異形棒鋼とH形鋼で上昇傾向が続き、アスファルト合材(新材、再生材)と木材(製材、型枠用合板)も上昇傾向が続いている。

同調査は全国のモニターへのアンケートを基に集計。回収状況により異なるが、毎月1000—2000者から回答を得ている。

調査対象はセメント、生コンクリート、骨材(砂、砂利、碎石、再生碎石)、アスファルト合材(新材、再生材)、異形棒鋼、H形鋼、木材(製材、型枠用合板)、石油(軽油)の13品目。

モニターが価格動向を1~5の5段階で評定し、2.5以上を「横ばい」、3.5以上を「やや上昇」、4.5以上を「上昇」としている。

ことし3月時点では、石油が4.5、異形棒鋼と木材(型枠用合板)が各4.2、H形鋼が4.1をつけた。4月には、異形棒鋼とH形鋼、アスファルト合材(新材、再生材)が4.5を超え、それまで3点台で推移していたセメントと生コンクリートも4を超え、全品目で「やや上昇」以上を記録した。

全国平均値と比較すると、全期間を通じ3点台の品目ではほぼ差がないが、値上がり傾向が強い品目では差が拡大。最大で1割程度、本道数値の方が高くなる。

品目別では、4月、アスファルト合材(新材)の原料であるストレートアスファルトの元売りが、原油価格の上昇を受け卸価格を1万3000円値上げ。5、6月も6000円ずつ値上がりしている。

生コンも原油高の影響で、運送費がかさむ。さらに原料のセメント、骨材の仕入れ価格も値上がりし、価格転嫁せざるを得ない状況だ。

木質系資材は21年6月以降継続して値上がり傾向が継続。製材は22年に入り小康状態となっていたものの、燃料費高騰などを背景に5月以降は再び値上がり傾向となっている。

6月時点でも、異形棒鋼とH形鋼を中心に6品目で値上がり感が根強い。鉄鋼資材は断続的な値上がり傾向が1年以上続いていて、価格の落ち着きは見通せない。

国交省や道は6月末、資材価格の高騰を受け単品スライド条項の運用ルールを改定。適切な執行を求めている。

掲題事業の確認申請図書に基づき工事費の積算を行いましたところ、買取協定書締結時の予定金額を大きく上振れる積算となりましたためこれまでの経緯（資料1）及び価格高騰の原因（資料2）、日本全体の建設資材高騰の状況（資料3）を整理致しました。

また、需給バランスの崩れの影響を受けた資材の納期の長期化が発生している状況（資料4）から、現時点で工期遅延の可能性があります。世界情勢を背景とする資材原料、燃料、加工費用のコストアップは、価格転嫁する傾向が強まっており、今後さらなる高騰が続くと予測されています。詳細部材の分析については引き続き検証いたしますが、見通しは極めて厳しいと思われまます。現時点の工事費及び情勢についてご報告いたしますとともに、今後は、さらなる資材価格高騰に対しては設計内容のVE検討によって吸収し、着工後の工事費の増額が発生しないように推進いたします。まずは、状況についてご理解いただき、事業推進を図ってまいりたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

### 1 工事費想定 の経緯

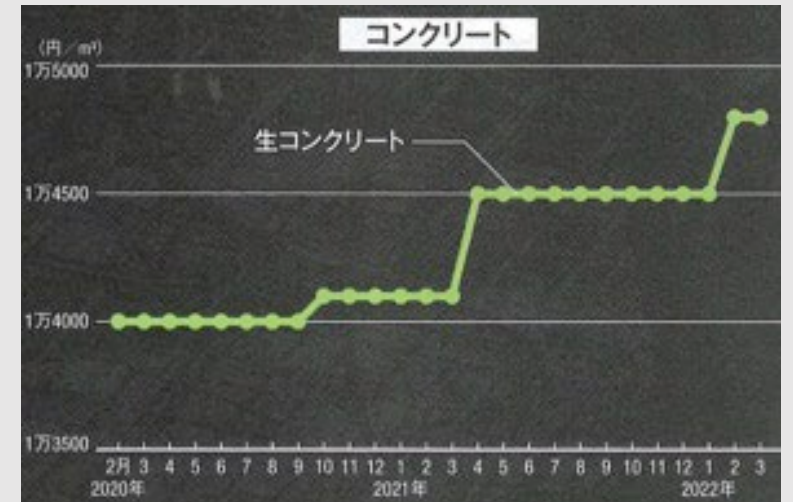
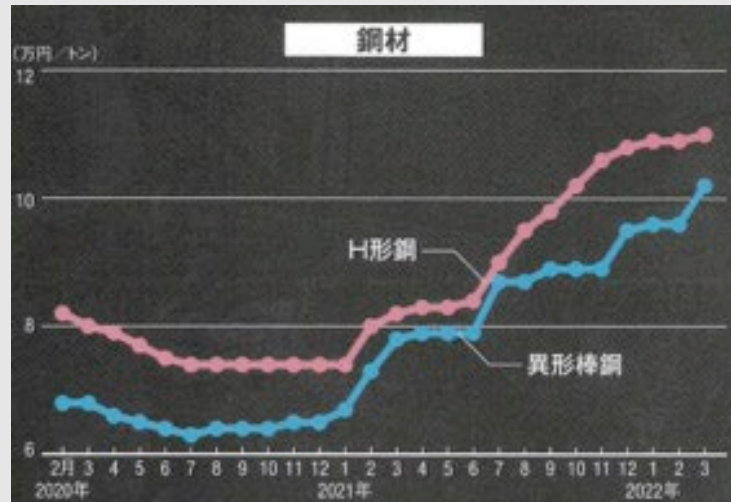
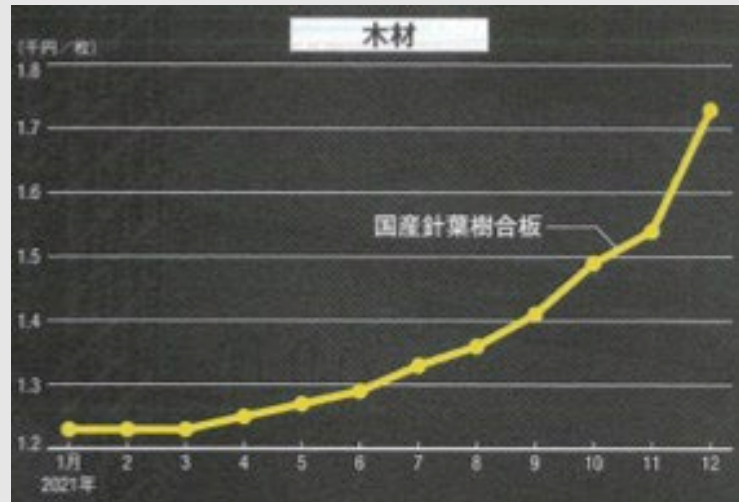
時期		工事費（税込/外構別）	延床面積	備考
①プロポーザル提案時	2020年5月	736,395,000円	631坪	事例ベースでの坪単価による概算
②業務代行覚書締結時	2021年7月	①と同じ	①と同じ	設計着手前のため積算せずに①同額とした
③買取協定書締結時	2022年3月	678,203,000円	626坪	3階→2階に伴い価格調整（再積算なし）
④確認申請提出時図面	2022年7月	1,001,000,000円	634.56坪	設計図書に基づき積算

### 2 建設資材価格及び納期の状況

種類	主な原因	上昇率	直近の単価	納期の状況
①鉄骨	原料100%海外依存のためコロナ金の資材高騰に加え為替による影響 さらにメーカー高炉の脱炭素化対応	2021年春から1年で1.5倍	@395,000円/ton	過去1年で納期が2倍
②生コンクリート	セメント、輸送費、産業廃棄物処理費用の高騰	2021年秋より段階的に増額	@19,350円/m <sup>3</sup>	-
③異形鉄筋	原料100%海外依存のためコロナ金の資材高騰に加え為替による影響	2021年夏より2022年3月までで約1.5倍 さらに上昇中	@130,000円/ton	-
④セメント成型板	原料及び製造燃料がロシア産であること、物流コストの増加	2020より複数回に渡る値上げにより30%上昇	@37,500円/m <sup>2</sup>	長期化の傾向
⑤金属製建具・ガラス	原油原産国の生産量調整による原油の高騰、物流コストの増加	2021年秋に25%～30%上昇		
⑥木材（合板等）	コロナに起因する米国発ウッドショックに加え、ロシア経済制裁に伴う日本への輸出禁止	2021年の1年で2倍に上昇 さらに2022年に入り上昇中	型枠用@2400 カラマツ@1800 構造用@4300	
⑦機械設備関連 （冷暖房設、換気設備等）	半導体及び樹脂の世界的な不足、物流の停滞、設置工事人材の恒常的不足	2021年春から1年間で30%～40%上昇	-	半導体不足及び設置労務不足による納期の長期化
⑧電気設備関連 （キュービクル/電灯類）	半導体及び樹脂の世界的な不足、物流の停滞、設置工事人材の恒常的不足	キュービクル:2021年春から1年で1.6倍	-	半導体不足及び設置労務不足による納期の長期化



### 3 建設資材の動向にかかる資料及び見解



出典：日経アーキテクチュア 2022-4-14号より抜粋

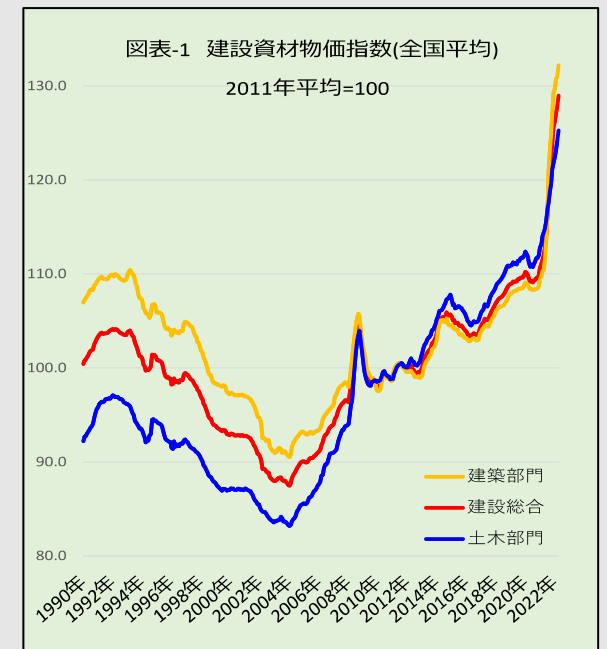
#### 価格動向

全国的に価格転嫁が進展しており、2021年1月以降、全ての建設資材において最高値の更新が続いています。

特に、コロナの影響に加えてロシアによるウクライナ侵攻は国際的なサプライチェーンの混乱、輸入資材のさらなる高騰を引き起こし、加えて急激な円安の進行が大きなコストアップ要因となって建設資材価格の上昇を強めています。

#### 価格の見通し

輸入資源の高騰が及ぼす影響は広範囲に渡るため、素材や運搬費の値上がりが一時的に製品、二次製品価格へ今後さらに波及すると見込まれています。多くの資材は販売価格の見直しが進められており、大手メーカーが2022年秋の値上げ予定を発表したことから、他社も追随すると見られており、さらに上昇傾向は続く見通しです。



出典：建設物価 調査レポート 2022.05.18より抜粋



品名	規格	単位	2020年6月号	2022年6月号	変動額	変動率
異形棒鋼	SD295 D16	t	65,853	116,948	51,095	177.6%
H形鋼	SS400 200×100	t	80,911	119,982	39,071	148.3%
セメント(バラ)	普通ポルトランド	t	11,200	11,716	516	104.6%
レディーミクストコンクリート	普通 18-18-25 (20)	m3	15,415	16,072	657	104.3%
再生クラッシュラン	40~0mm	m3	2,283	2,319	36	101.6%
再生アスファルト混合物	密粒度13	t	11,236	11,474	238	102.1%
600Vビニル絶縁電線(IV)	1.6mm 単線	m	20.1	33.5	13.4	166.7%
配管用炭素鋼鋼管(ガス管)	白ねじ付き管(SGP) 50A 4m	本	4,543	5,758	1,215	126.7%
コンクリート型枠用合板	12×900×1800mm(無塗装・輸入品)	枚	1,312	1,983	671	151.1%
燃料油	軽油ローリー渡し	ℓ	71.4	117.8	46.4	165.0%

毎月10日までに得られた調査結果を翌月号に掲載

## 4 建設資材の納期及び工期にかかる資料及び見解

### 鋼材の状況

出典の記事に見られるように、値上げの影響による需給バランスの崩れが納期の長期化を引き起こしており、躯体に使用する角形鋼やH型鋼の納期はこの1年で2倍になっています。

### 設備機器の状況

設備工事においては、冷暖房換気設備工事やエレベーター、キュービクルなどが半導体及び設置工事人材の不足を受けており、納期及び設置工事の遅れが生じています。機器メーカーへのヒアリングでは、調達困難な資材があることから発注前に納期を予測することができず、発注後の納期確定となることを指摘されています。

### 本事業の状況

鋼材調達の長期化に対しては、下記出典の事例と同様に、実施設計の躯体確定時に鉄骨資材を発注することで遅延を最小限に抑えることができました。一方、設備機器については前述の理由から現時点では遅延の可能性が高く、発注後に納期が確定することになります。また、躯体の納期遅延により外構工事が冬季に入ることから、品質管理の観点で外構施工時期の調整が必要となります。

出典：日経クロステック 2022.3.10 日経アーキテクチャ 2022-4-14号

**2021年に起こった世界的な木材価格の高騰「ウッドショック」の後も追うかのように、鋼材の価格が上昇している。調達のリードタイムが長引き、工場建設の見直しや公共施設の開業延期につながるなど建築プロジェクトにも影響が出始めた。鉄鉱石と石炭の価格高騰や世界的な供給体制の見直しが需給バランスを崩し、価格の先行きが見通せなくなっている。**

事業化は一旦見合わせ、23年度以降に最終判断を延期する――。22年1月24日に建材大手の大建工業が発表した資料からは「不確定要素があまりにも多い」「延期せざるを得ない」などの悔しさがにじむ。

延期したのは新工場の建設だ。約70億円を投じて北海道旭川市に工場を新設し、24年度に国産材を使った自社開発の木質ボードを量産。これが実現すれば東南アジアからの輸入材に頼っていた合板を代替でき、壁や家具向けの板材の供給能力を底上げできるはずだった。

事業の見直しを迫った要因の1つが、鋼材の価格高騰だった。同社は詳細な内訳を明かしていないが、工場の建屋と生産ラインに用いる鋼材が急騰。総事業費は最終的に約120億円と当初の2倍近くに膨張した。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う技術者の渡航制限なども重なり、計画を見直さざるを得なくなった。

鋼材価格はこの1年半で高騰している。建設物価調査会によると、東京のH形鋼価格（SS400、200×100mm）は20年下期の1トン当たり7万4000円から、21年に入ってほぼ毎月上昇。22年2月に10万9000円と47%高くなった。異形棒鋼（SD295、D16）も20年8月から22年2月にかけて50%値上がりした。

東北地方の鉄骨加工会社の営業担当者は「鋼材同士の溶接に使う線材も値上がりした。燃料代もかさんでいるため利益がほとんど出ない」と悲鳴を上げる。

### 調達難でプロジェクトに遅れ

鋼材調達の遅れもすでに生じている。宮城県南三陸町は隈研吾建築都市設計事務所が設計を担当した町立の震災伝承施設「南三陸311メモリアル」の開業時期を22年4月から22年10月に延期した。建設現場で鋼材の調達に想定よりも時間がかかったためとしている。

大手鋼材商社の担当者は「値上げが続いていることから、建設会社や鉄骨加工会社が安値で仕入れようとして注文を前倒ししている。そのため以前よりも納期が長くなっている」と語る。同担当者によると、20年10月にH形鋼の納期は長くても2カ月だったのが、21年10月には最大で3カ月半に延びた。鋼板から作る角型鋼管の納期は21年10月に最大で5カ月と、1年前の2倍の水準だ。

「国内で計画される大規模な半導体工場では、鉄骨造からRC造に切り替えざるを得ないとの話も出ているようだ。だが梁材（りょうざい）には鋼材を使わざるを得ないため、価格高騰の影響は免れないのではないかと」

### (3) 整備事業費の増額に対する分析について

分析：アルファコート(株)  
令和4年8月19日

#### ①協定締結時工事費と施工者見積額との比較について

P2「大通・幸町地区整備「コミュニティ施設」整備事業大通棟工事項目比較表」のとおり

建築主体工事の工事項目別に工事費と見積額を比較したところ、特に鉄筋工事（上昇率 63.41%）、鉄骨工事（同 61.49%）、木工事（同 60.98%）がいずれも 6割を超える上昇率であることが判明いたしました。これは、資料（2）の中でも触れておりますが、高騰が顕著な資材と一致した結果となり、特に鉄鋼関連は今後も高い上昇率を保ったままと予測されています。

#### ②施工者見積額の主要項目調査について

P3「別途3社見積額との比較表」のとおり

この表では、現在の施工者見積もりの中より、取り急ぎ3社見積可能な項目より順次見積もりを徴収し、施工者見積額と比較したものです。

調査したすべての項目において、3社見積の最安値より、現在の施工者見積もりの額が下回っていることが、確認できたところです。

ただし、協定期（3月）と見積もり徴収時期に若干差があることから、その間も資材価格は、上昇続けていることは事実です。

今回の調査によって現行の施工者見積額が、決して不当に高いものではないことが確認でき、かつ数か月でも工事を遅らせることにより、さらなる価格上昇を招くことになる証左ともなり得ると考えられます。

今後も調査の視点を広げ、精度を上げながら分析を続けてまいります。

## 大通・幸町地区「コミュニティ施設」整備事業大通棟工事項目比較表

No.	名 称	規 格	施工者見積額	協定時金額	上昇率 (%)	備 考
A	建築主体工事		496,200,000	329,053,000	50.80	
	1	直接仮設工事	28,800,000	19,452,000	48.06	
	2	土工事	10,300,000	7,398,000	39.23	
	3	土留め工事	10,150,000	7,020,000	44.59	
	4	地業工事	1,230,000	1,050,000	17.14	
	5	鉄筋工事	25,070,000	15,342,000	63.41	
	6	コンクリート工事	24,850,000	16,503,000	50.58	
	7	型枠工事	15,980,000	11,283,000	41.63	
	8	鉄骨工事	151,800,000	94,000,000	61.49	
	9	外壁工事	40,000,000	29,205,000	36.96	
	10	防水工事	21,900,000	14,441,000	51.65	
	11	タイル・石工事	8,000,000	6,050,000	32.23	
	12	木工事	2,500,000	1,553,000	60.98	
	13	金属工事	37,640,000	25,870,000	45.50	
	14	左官工事	8,130,000	5,533,000	46.94	
	15	金属建具・硝子工事	61,000,000	40,950,000	48.96	
	16	塗装工事	2,900,000	2,193,000	32.24	
	17	内装・断熱工事	36,020,000	23,656,000	52.27	
	18	家具工事（別途）				
	19	サイン工事	3,430,000	2,604,000	31.72	
	20	昇降機設備工事	6,500,000	4,950,000	31.31	
B	電気設備工事		95,000,000	72,092,000	31.78	
C	機械設備工事		190,000,000	129,501,000	46.72	
D	ﾌﾟﾚﾊﾞﾌﾞ 冷蔵・冷凍庫工事		25,000,000	16,300,000	53.37	
E	外構工事	別途工事				
	【小計】		806,200,000	546,946,000	47.40	
F	共通仮設費		28,250,000	17,775,745	58.92	
	【中計】		834,450,000	564,721,745	47.76	
G	現場管理費		41,340,000	29,026,697	42.42	
	【大計】		875,790,000	593,748,442	47.50	
	【小計】					
H	一般管理費		34,617,800	22,799,740	51.83	
	【値引】		-407,800			
	合計		910,000,000	616,548,182	47.60	

津別町 大通・幸町地区「コミュニティ施設」整備事業大通棟新築工事

2022年8月19日

・別途3社見積額との比較表

円：税別

	A：最安値	B：他社	C：他社	施工者見積	Aとの比較
1 電気設備工事	113,999,000	115,800,000	115,300,000	95,000,000	83.33%
2 機械設備工事	227,999,000	236,430,000	230,500,000	190,000,000	83.33%
3 土留め工事	13,270,000	15,000,000		8,500,000	64.05%
4 鉄骨工事	179,000,000	214,000,000	197,000,000	151,800,000	84.80%
5 アスロック（外壁工事）	55,304,000	58,069,200	63,870,000	40,000,000	72.33%
6 屋上防水工事	25,169,000	27,000,000	28,600,000	21,900,000	87.01%
7 金属建具工事（アルミ）	39,800,000	41,500,000	45,500,000	32,626,300	81.98%
8 金属建具工事（鉄）	20,000,000	22,500,000	23,000,000	19,475,000	97.38%
9 金物工事（一般）	23,732,600	24,540,000	25,500,000	20,000,000	84.27%
10 金物工事（LGS）	22,687,840	23,474,170	26,550,800	17,640,000	77.75%
11 内装工事(断熱含む)	41,042,300	39,457,440	42,555,900	36,020,000	87.76%
12 サイン工事	3,431,500	3,655,000		3,430,000	99.96%

針葉樹の色目



トドマツ



カラマツ

色調抽出



15-75A

サンプル① #103 ライトグレー



15-65B

サンプル② #302 ナチュラルブラウン



17-70L

NG(製作無し)



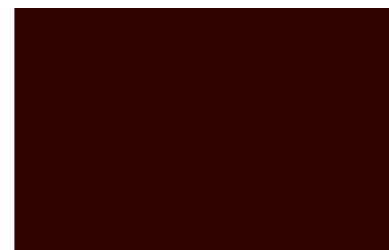
09-50L

サンプル③ 09-50L



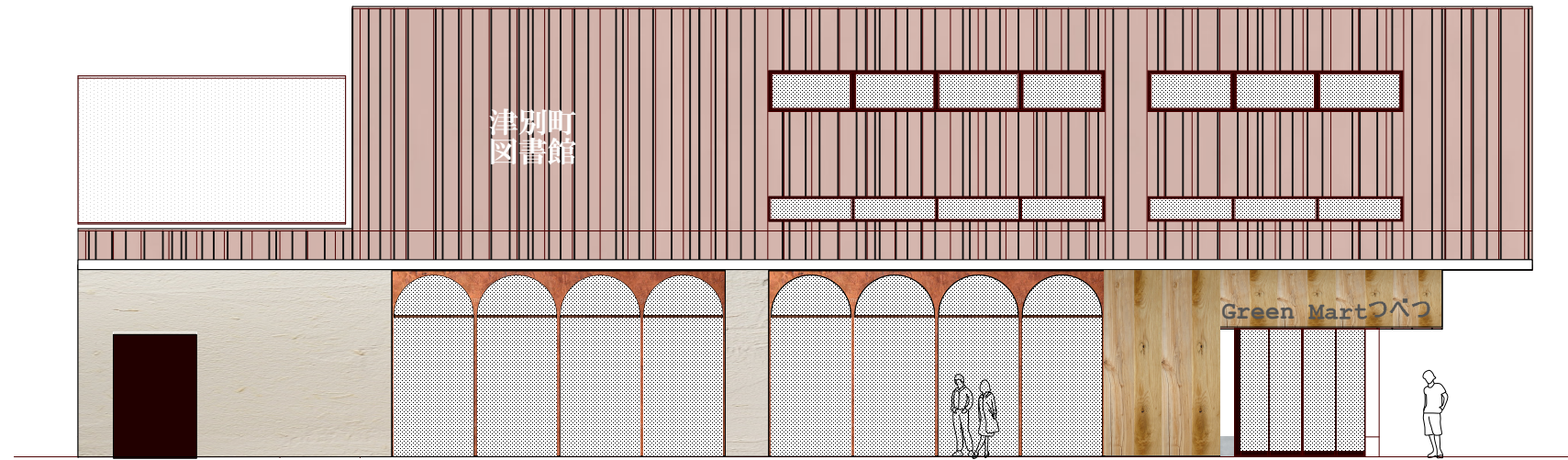
07-20H

サンプル④ #303 ブリック

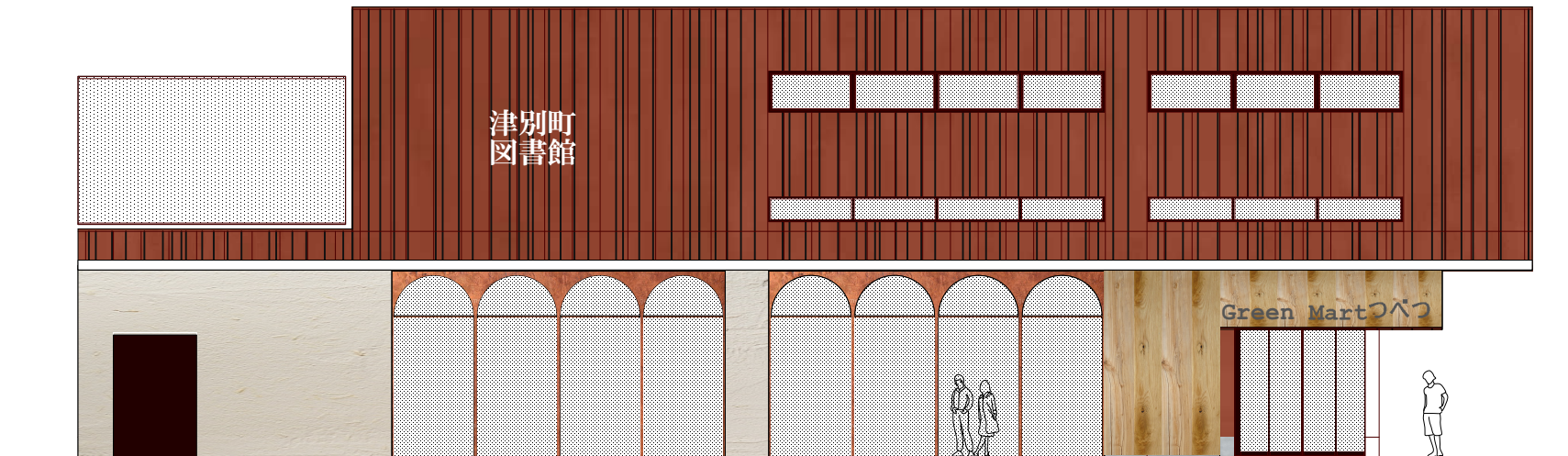


09-20B

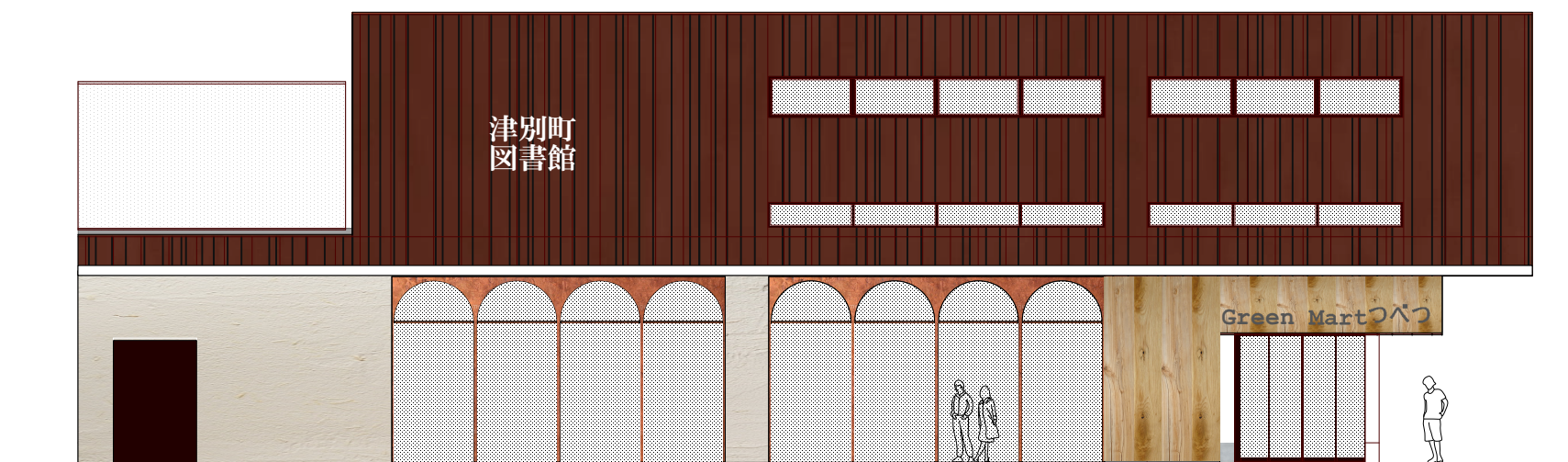
サンプル⑤ #304 ダークブラウン



木目の薄い部分



木目の赤身の部分



木目の黒身の部分



国道側からの外観



病院側からの外観



町舎側からの外観